

■森岩雄 映画製作者。戦時下にアメリカ式手法で映画事業の基盤、<敗戦>後も{アート・シアター}など影響力。
もりいわお
Bushidou・ 1899＝ 横浜生れ。

日露戦争終・ 1905＝ 6歳：

アヲヲ 創刊・ 1908＝ 9歳：

明治天皇没・ 1912＝13歳：

ロシア革命・ 1917＝18歳： 成蹊実業専門学校に学んで、活動写真に興味を持ち、
ペルシヤ条約・ 1919＝20歳： 中退、
原敬首相暗殺 1921＝22歳： *{東京日日新聞}が募集した子供のための映画シナリオに入選後、{キネマ旬報}に「第八芸術貧燈録」という映画批評を連載、新進気鋭の評論家として知られるようになる。
関東大震災・ 1923＝24歳： 著書「早川雪洲」、
日本映画俳優学校の主事兼講師に着任、

治安維持法・ 1925＝26歳： *村田実監督「街の手品師」のシナリオライターとして、日活に招かれる。
円本時代始・ 1926＝27歳： 村田と渡欧し、「街の手品師」を紹介。_若手を集め、日活に企画案を提供するグループ"金曜会"を結成。
金融恐慌・ 1927＝28歳： _"新しくは装えど古き女の悲劇"と銘うった「椿姫」などのシナリオを書く一方、村田実、溝口健二、阿部豊、田坂具隆、内田吐夢らの監督たちに企画やシナリオを提供、沈滞の色が濃かった日活に生气与える。
共産党事件・ 1928＝29歳： ブローチー「ステラ・ダラス」とミュルジェール「ラ・ボエーム」を翻訳、
海軍軍縮条約 1930＝31歳： 著書「映画芸術」「映画脚本二十講トーキー・サイレント」、
満州事変・ 1931＝32歳： ビアトリス・バートン「ハリウッド・ガール」を翻訳。バートン・クレーンに協力して、「酒が飲みたい」の日本語詞を作詞、レコードは大ヒット。_前途を囑目されたが、その才覚を見込まれて、
五一五事件・ 1932＝33歳： _トーキー技術の開発を目的とする映画製作所PCLの創立に参加、取締役製作部長となる。ハリウッド視察を行い、予算制度を確立し、"プロデューサー・システム"を試みるなど、組織的な面で大きな功績を残す。
芥川直木賞始 1935＝36歳：

日中戦争始・ 1937＝38歳： "金曜会"の名企画「彼をめぐる五人の女」「大岡政談」。_J.O.スタジオと合併して{東宝}が発足するに際しては、映画手法としての特殊撮影の重要性から、円谷英二を招聘。その後も制作面の中心となって、従来の日本映画の会社には欠けていたアメリカ式のプロデューサー・システムを推進するとともに、"清く正しく美しい"健全娯楽を持論に、日中戦争と太平洋戦争の期間を通じて"戦意高揚映画"をつくり、

日米開戦・ 1941＝42歳：

創価学会検挙 1943＝44歳： 常務取締役。
年金+総武装 1944＝45歳：
敗戦・ 1945＝46歳： 戦犯指定と追放を予測して_東宝を退社、
公職追放後は三和銀行の取締役を務め、
新憲法施行・ 1947＝48歳：

独立回復・ 1951＝52歳： 顧問として_東宝に復帰。
メデー事件・ 1952＝53歳： *取締役製作本部長として第一線に返り咲き、かつての"金曜会"での名企画「足にさわった女」を公開したのははじめ、東宝映画の総指揮官として戦後の日本映画黄金時代を支えて行く。

TV放送始・ 1953＝54歳：
自衛隊発足・ 1954＝55歳： _"G計画(ゴジラ)"が会議にかけられた際も、満場の反対に抗してただ1人この企画を支持し、前代未聞のこの企画を実現せしめ、日本特撮史のまぎれもない功労者の1人となった。
55年体制始・ 1955＝56歳： アメリカの製作者、脚本家ドーリ・シャリーの「Case History of a Movie」(1950)を紹介解説した「映画製作者の仕事」、
なべ底不況・ 1957＝58歳： _専務取締役となってからは、労政担当の馬淵威雄とタッグを組んで、労働攻勢から会社を守り抜き、
安保闘争・ 1960＝61歳：

全国総合計画 1962＝63歳： 馬淵とともに副社長に就任、映画部門を藤本真澄、演劇部門を菊田一夫に任せ、以後も絶大な影響力を及ぼし続ける。紫綬褒章。この年発足した日本の{アート・シアター}の命名者、創立者でもある。

大学紛争始・ 1965＝66歳： 著書「アメリカ映画製作者論」、
美濃部都知事 1967＝68歳： オリーブ・プロティ「母の曲」を翻訳。

全共闘バカ・ 1969＝70歳： 勲三等旭日中綬章。

ドルショック・ 1971＝72歳： 映画の斜陽化とともに東宝の危機が深刻化したときには、アメリカその他の国で映画の黄金時代を誇った撮影所中心の大量生産方式が崩壊した際、それが新しいユニット・プロ方式によって息を吹きかえしつつあった事実を例に、それにならって撮影所の製作部門を分離して独立会社とする方針を説いたといわれる。

石油ショック 1973＝74歳：
クランプール事件 1975＝76歳： 著書「私の芸界遍歴」、
田中角栄逮捕 1976＝77歳： 「映画製作の実際」、
成田衝突・ 1978＝79歳： 著書「大正・雑司ヶ谷」を最後に、
革新大敗北・ 1979＝80歳： _没した。